

大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための住民懇談会での意見・要望

【第1回】

日 時	平成 27 年 7 月 24 日（金） 午後 7 時～8 時 30 分
場 所	大河原町役場大会議室
参加者	9 名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局(企画財政課)

意見・要望

○男性

- ①企業誘致について、企業が要望する水・電気・交通の便や工場緑地法の規制などで利用できる土地は限られるが、川根にはそれだけの土地があるのか。魅力ある工業団地にする必要がある。
- ②企業が進出する際、働く人も一緒に連れてくるのを食い止めないと地元雇用につながらない。
- ③30 数年前関東からの移住先を相談したところ、県南では大河原と言われた。当時から評価は高かった。町境のゴルフ場を見られる所に住宅地を造成したり、駅前から直線的に道路を通したりしてはどうか。

○男性

- ①企業誘致の目標数値はないのか。
- ②参加者が少ない。町が本気でやっているか心配になる。町民の意見を吸い上げる機会にしてはお粗末である。

○男性

- ①たくさんの事業が盛り込まれているが金は国からでるのか。町だと税金に跳ね返るのが心配。
- ②地方には仕事もない、あっても人材派遣ばかりの状態、東京圏から 6 万人地方に人を流すとあるができるのか。結婚ができないのは原因に非正規社員が多く将来が不安だからという面がある。国が何とかしないといけない。

○男性

- ①大河原町では 50 年前から「町は住むところ」として職場は仙台圏に求め、インフラなど住宅地形成を行ってきたのはすばらしい。企業誘致については、他町を見ても 30～40 年で企業が入れ代わっており、どこを誘致するかよく考えてほしい。
- ②大河原は昔から商人のまち。先人は紅花などを遠く大石田まで行って商ってきた。桜まつりのボランティアガイドではそのあたりの話をしたらとても喜んでもらった。商人のまちらしい動きが起きてほしいと思う。

【第2回】

日 時	平成 27 年 7 月 25 日（土） 午前 10 時～11 時 30 分
場 所	世代交流いきいきプラザ多目的ホール
参加者	9 名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局(企画財政課)

意見・要望

○男性

①町の特徴をどう考えているか。

②桜以外に何を案内すればよいか困った。まちの宝探しの話があるが、宝物は埋まっているものと、目の前にあるものを探す目線が必要と考える。

○男性

①柴田町の千桜橋の影響で今年の桜まつりの観客数は減少したのか。

②新たな散策路を考えてほしい。

○女性

①何でも無料にするのではなく、ある程度経費はもらうやり方にすべきではないか。子育て中の親も無料が当然になり有料だと寄ってこなくなる。

また、親の大変さ、子育て中の苦労を企業側が理解することと、その質の向上を呼び掛けていくことが必要と思う。

②介護が必要になったとき、すぐ施設に入れるだけでなく、在宅でできることの啓発を押し進めたい。各種サービスを受けつつできることをアピールしてほしい。

また、在宅で最後まで看取った場合、町からの感謝状など出せないか。家族としては、「大変でしたね」という気持ちが伝わり、がんばりを認めてもらうだけでずいぶん違う。

○男性

①策定予定の 11 月には盛り込まれた政策が実行できるのか。

②地場産品のブランドづくりで町と連携したプロジェクトなどはあるのか。

【第3回】

日 時	平成 27 年 7 月 25 日（土） 午後 2 時～3 時 30 分
場 所	幸中島集会所会議室
参加者	9 名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局(企画財政課)

意見・要望

○男性

- ①災害のない町の PR を。また、工場誘致より住みやすさで人を流入させる方策を考えた方がいい。柴田郡 3 町でプロジェクトを作っては。創生会議委員の有識者とはどんな人が選ばれているのか。
- ②「大河原のうまいものは」と聞かれ困った。食事は旅行の成否を左右するのでぜひ考えてほしい。通訳など町の観光ボランティア充実を。せっかく見るところがあっても説明できないのでは残念。町には空き家が多いので借りて住まわせれば住民が増える。町で住宅を建てても住民を増やすことを考えてはどうか。

○男性

- ①子育ての要望が多いので、これに重点を置けば必然的に人が増える。大河原町は「住むところ」であることを最優先に整備すると思う。

○男性

- ①庁内プロジェクトチームはとてもいいと思う。どんどん声を吸い上げ活用してほしい。体育施設が分散していると使い勝手が悪く災害時にも効率が良くない。桜まつりで弁当売店や食べる場所、駐車場がないと言われる。オーガを活用したらどうか。高齢化や地域活性化対策のために、社会教育の充実を図ってはどうか。ただ現在の公民館は狭い。お年寄りが生き生きと暮らせるまちづくりを。

○男性

- ①桜まつりの大型バス駐車場が不足している。大河原橋の川上の河川敷を整地すればいいのでは。若者の巡り合いイベントを早めにすすめてほしい。

○男性

- ①大河原町は交通の利便性など住環境をいかに整備していくが重要ではないか。それには町内の実業高校の専門性を活かしたり隣町との連携を進めたりしていかないと難しいと思う。大河原町が拠点でなくても、人の流れをつくることによって収入を得、活性化していく。角田や村田は農産物生産、大河原で加工など、連携する必要がある。
- ②若者と高齢者の交流の場をつくってほしい。いきいきプラザでは限られるのもっと住民同士の心をつなぐ場を要望する。

【第4回】

日 時	平成 27 年 7 月 25 日（土） 午後 5 時～6 時 30 分
場 所	金ヶ瀬公民館研修室
参加者	8 名
出席者	伊勢町長、事務局(企画財政課)

意見・要望

○男性

- ①中学生ですでに結婚願望が低いという報道があった。学習機会の提供やアンケートをとったり仲人會を作りお見合いを促進したりしてはどうか。また、町民バス運行や産婦人科の誘致を要望する。
- ②空き店舗が増えているが、滞納などの問題が起こる心配があるので行政として借り手を募集、契約したら貸し手も安心できるのではないかと。

○男性

- ①以前文部省の方針で社会科や理科を減らし道徳をなくした結果、自然科学の知識レベルが低く、相手のこと、地域のことと考えが及ばないから結婚感ももたない人が増えた。教育の根底からやらないと少子化は治らないと思う。
- ②音楽ホールなど国・県レベルのハコモノをつくってほしい。

○男性

- ①仕事が一番と思うので、大企業を誘致し町民を雇用してくれることを望む。
地場産品を農家が集まってやれる大きな施設があればと思う。

【第5回】

日 時	平成 27 年 7 月 26 日（日） 午前 10 時～11 時 15 分
場 所	総合体育館研修室
参加者	1 名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局(企画財政課)

意見・要望

○男性

- ①柴田町側の桜の老木には支えがあるが大河原には少ないことを指摘される。
- ②急患センターは好評だし、中核病院と合わせもう少しまちの医療・福祉はすごいと PR しては。
- ③食のイベントをやってほしい。
- ④先日角田の企業が当区に作る有料老人ホームの説明に来たが、入所費用が高い。町でもっと低額な施設は作れないか。また、中核病院の医師等にも協力してもらって生活支援してもらえれば、一番大事な「安心してらせる」町になるのではないかと。
- ⑤生活の安定には終身雇用は大きな魅力。私の関係する事業所の就職面接でも最初に「終身ですか」と聞いてくるほど。

【第6回】

日 時	平成 27 年 7 月 26 日（日） 午後 2 時～3 時 30 分
場 所	大河原町役場大会議室
参加者	5 名
出席者	伊勢町長、大野副町長、事務局(企画財政課)

意見・要望

○男性

- ①Next 大河原ゆめプランと重複している課題の考え方は。
- ②財政的シミュレーションについての考えは。
- ③アンケート対象者に高齢者が入っていないが、高齢者自身の支援の考え方を聞かないのか。

○男性

- ①合計特殊出生率の分析が足りないのでは。
- ②マスコミでは若い男性の性向を「草食系」などというが、それはこれまでの育て方、育てられ方に問題がある。親が子ども会や区会に参加しないなどはその延長ではないか。人口だけでなく、人生に対する積極性を教育する必要がある。
- ③大河原町は昔から情報の町と思うが、商店街はその特徴が活かせていないと思う。施策に情報政策を入れる必要があるのではないか。